

国際交流講演会実施報告書

2025 年 5 月 30 日

所 康弘

開催日時：2025 年 5 月 23 日 17:10～18:40

会場：リバティタワー1143

講演者：Adolfo Ladorde 博士

講演テーマ：Challenges and Opportunities of the Mexico-Japan Economic Partnership Agreement: A 20-Year Historical Review

参加者数：70 名

共催：駐日メキシコ大使館

特別ゲスト：シエラ・ベルナル公使（駐日メキシコ大使館）、ガルシア・ロペス一等書記官（駐日メキシコ大使館）

【講演概要】

はじめに

2025 年、日墨経済連携協定（Acuerdo de Asociación Económica México-Japón, 以下 AAEMJ）は発効から 20 年を迎えた。2005 年に正式に発効した同協定は、日本とメキシコの二国間関係における経済枠組みであり、通商・投資・技術協力の領域において包括的な制度的基盤を提供してきた。本発表では、AAEMJ のこれまでの成果と未解決の課題、そして今後の展望について、統計的分析と制度的評価をもとに検討した。

1. 協定発効の意義と制度的枠組み

AAEMJ は、両国間の自由貿易を促進するのみならず、関税削減、投資保護、原産地規則、衛生植物検疫措置（SPS）、技術協力、知的財産、環境、観光などの多岐にわたる分野で詳細な規定を含む包括的協定である。とりわけ、第 14 章「貿易および投資促進に関する協力」は、制度的連携の柱として位置づけられており、日墨間の共同委員会および各種小委員会を通じたフォローアップ・制度実施が想定されている。

2. 貿易の推移と相互依存の深化

2005 年から 2023 年にかけて、日墨間の貿易は大幅に拡大した。具体的には、輸出は約 180%、輸入は約 30% 増加し、総貿易額では約 40% 増であった。特に 2017 年には総額 222 億ドルに達し、1993 年と比較すると約 350% 増となっている。日本はメキシコにとってアジア地域で第 3 位、世界全体で第 6 位の貿易相手国となっており、両国間の経済的結びつきはかつてない水準に達している。

3. 日本の対メキシコ直接投資（FDI）の現状

日本からメキシコへの累積直接投資額（1999 年～2022 年）は約 305 億ドルに達しており、メキシコが受け入れた全外国投資の 4.6% を占める。その中心は、自動車部品、エネルギー、製造業、サービス分野であり、特に自動車関連分野においては日本企業がサプライチェーンの中核を形成している。

しかしながら、メキシコから日本への投資は依然として低調であり、双方向の投資関係が十分に成熟していない点は今後の課題である。また、COVID-19 の影響を受け、2019 年～2020 年には投資が減速したが、法的安定性が FDI の長期的持続性を支えている。

4. TPP11（CPTPP）との協定併存による課題

2018 年に発効した環太平洋パートナーシップに関する包括的・先進的協定（CPTPP）の登場により、AAEMJ と CPTPP という二重の協定が存在することとなった。これにより、輸出入業者は両協定における関税率や割当を比較検討し、適用協定を選択する必要性が生じている。

両協定における農産品の関税比較では、アガベシロップや冷凍オレンジジュースについては AAEMJ の方が有利であり、馬肉など一部製品では CPTPP が有利である。これは、協定併存による利用者の混乱や非効率性をもたらしていると同時に、制度運用の柔軟性も示唆している。

5. 中小企業とバリューチェーンへの統合

日墨間の貿易において、中小企業の参加率は依然として低く、その多くがグローバル・バリューチェーンから周縁化されている。今後の展望としては、以下の要素が必要不可欠である。（１）共同投資スキームの創出、（２）地場産業との連携による付加価値の創出、（３）地域産業に根差した支援政策と人材育成の整備。

6. 結論と政策提言

発効から 20 年を経た AAEMJ は、一定の成果を収めつつも、制度的な限界と活用不足が顕在化している。以下の方策が求められる。（１）CIBE（ビジネス環境改善委員会）の年 2 回開催による継続的対話の保障、（２）民間経済委員会（COMCE および経団連）間の定期協議の制度化、（３）戦略的分野における日墨共同出資メカニズムの創設、（４）未履行条項（第 140～147 条）への体系的な実施計画の策定と予算化。

これらの取り組みは、単なる二国間自由貿易協定を超えた、制度的協調に基づく共創的経済関係の実現に資するものである。